

平成28年度前半の緊急撮影

災害時における緊急撮影等について、平成 28 年度も継続して、東北地方整備局、国土技術政策総合研究所、国土地理院、近畿地方整備局、中日本高速道路(株)等と、空中写真撮影、航空レーザ測量等について協定を提携し、顕著な災害発生時に相手機関からの要請により、緊急撮影等を担当する測量調査会社の選定を行っている。本年度前半の実施状況を、以下に報告する。

1. 熊本地震

4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生した。この地震の規模はMj6.5、震央は熊本県御船町付近、震源の深さ約10km。その約27時間後の同4月16日1時25分に最大震度7の地震が発生した。この地震の規模はMj7.3、震央は熊本県益城町付近、震源の深さは約10km。近傍で最大震度7クラスの地震に相次いでみまわれたことにより、熊本県上益城郡を中心に熊本市、阿蘇郡などで、地震動による建物の倒壊、橋梁の崩落や破損、土砂崩壊、地盤液状化、断層変位による地盤の変形など顕著な被害が生じ、関連災害含め死者100名以上の災害となった。震源付近には、国土地理院の都市圏活断層図(2001)に記載され、政府の地震調査委員会から地震発生可能性の評価(2013)がなされていた布田川・日奈久断層帯があり、各種調査観測や測量結果から、熊本県御船町付近から同南阿蘇村付近にかけて、北東～南西方向の走行をもつ布田川断層および日奈久の一部が活動し、最大4m程度の北落ち・南上がり成分を持つ右横ずれ変位が生じたことが推定された。余震あるいは関連地震発生域は布田川・日奈久断層帯に留まらず、西は天草地方北部付近から東は別府湾地溝付近にまで及んでいる。

4月14日の地震に対し、同日22時32分頃、国土地理院から緊急撮影要請があり、翌15日の0時過ぎの担当会社が決定し同日7時過ぎの益城町付近の斜め写真撮影を開始、ほぼ同時に国土地理院から追加要請があり、他2社を選定し、同日11時頃から熊本市南区および宇城地区の撮影を実施した。

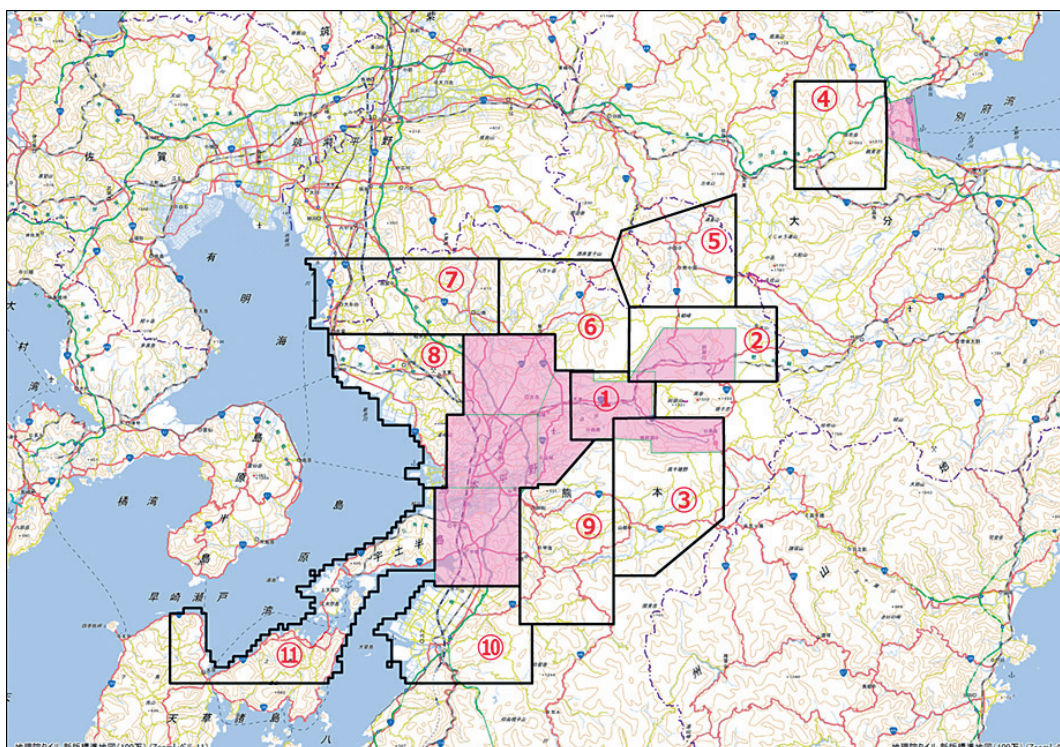


図. 熊本地震にともなう緊急撮影の範囲、数値は整理番号

4月16日の地震に対しては、同日2時37分頃国土地理院から要請があり（公財）日本測量調査技術協会の緊急撮影登録各社が分担することで、熊本地方だけでなく、天草地方北部から別府湾地溝付近におよぶ中部九州を横断する広範囲の地域の緊急撮影を4月18までにかけて実施し（図参照）、15日に成果を併せて、これらの成果を国土地理院がとりまとめ地理院地図上に公開された。

さらに、5月2日10時30分、国土地理院から、熊本地震に伴う地表地震断層およびその周辺の地盤変形等を把握するための、航空レーザ測定の緊急要請があり、同日夕刻までに担当社を選定、その成果は国土地理院が解析し国土地理院地図上に公開された。

2. 広島県福山市の洪水氾濫

6月22日から23日にかけて、梅雨前線を伴った低気圧が中国地方を東に進み、広島県南部で12時間雨量が150ミリを越える大雨となった。この大雨の影響で、芦田川水系（幹川流路延長86km・流域面積860km²）の福山市内の支川が氾濫し、建物の床上・床下浸水、道路の冠水、法面崩壊等の被害が生じた。

同23日14時51分、国土地理院から緊急撮影の要請があった。緊急撮影登録各社に照会をかけたところ、近畿地方に本社がある社から対応可能な返信があり、同17時15分にその旨を国土地理院に連絡し担当会社が確定し、緊急撮影が実施された。

3. 台風10号による東北・北海道地方の災害

8月19日に八丈島近海で発生した台風第10号は、同26日には発達しながら北上し、30日朝には関東地方に接近、30日18時前には暴風域を伴ったまま岩手県大船渡市付近から東北地方を北西方向に通過して日本海に抜けた。この影響で、岩手県宮古市、久慈市で1時間に80ミリの猛烈な雨となったほか、28日0時から31日6時までに北海道上士幌町で計329ミリを観測し記録的な大雨となるなど、東北地方から北海道地方を中心に西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、東北地方北部から北海道東部にかけて洪水氾濫や斜面崩壊などが生じ甚大な被害をもたらした。

8月31日9時35分、国土地理院から北海道清水町及び南富良野町付近の緊急撮影（斜め写真）の要請があった。緊急撮影登録各社に照会をかけたところ、午前中に4社から可能との回答があり、その旨国土地理院に連絡、13時19分に北海道地方に本社のある社に確定し、その日の午後に緊急撮影が実施され、地理院地図上でその成果が公表された。